

2020 年度申請

初級地域公共政策士・資格教育プログラム

「自己点検評価書」

プログラム名 環境政策基礎能力プログラム

実施機関名 龍谷大学

序章

プログラム概要（運営・実施体制）

プログラム名	環境政策基礎能力プログラム		
対応資格	初級地域公共政策士		
EQF レベル	レベル6		
構成科目数	21	取得ポイント数	12
本プログラムの社会的認証期間	2021（令和3）年4月～2028（令和10）年3月末日		

実施機関名	龍谷大学		
実施部門	政策学部		
プログラム実施責任者	大田 直史（政策学部長）		
プログラム担当者	今里 佳奈子（政策学部教務主任）		
事務担当者	橋本 昌樹（政策学部教務課）		
事務担当者連絡先	電話番号：075-645-2285	Email：seisaku@ad.ryukoku.ac.jp	
備考			

更新する資格教育プログラムの修了者数

(西暦)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
修了者数	17名	21名	13名	14名	19名	20名	22名

更新する資格教育プログラム科目の開講表

(西暦)		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
科目名		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
1	環境政策総論	○	○	○	○	○	○	○
2	環境経済学	○	○	○	○	○	○	○
3	環境社会学	○	○	○	○	○	○	○
4	持続可能な発展概論※2021年度受講者から「持続可能性と共生を学ぶ」	○	○	○	○	○	×	×
5	欧州の環境政策	○	○	○	○	○	○	○
6	環境エネルギー政策	○	○	○	○	○	○	○
7	保全生態学	○	○	○	○	○	×	○
8	温暖化防止政策 ※学部共通コース (環境サイエンスコース) 所属の受講生は「環境政策論Ⅱ」	○	○	○	○	○	○	○
9	キャリア・コミュニケーション演習 ※2014年度以前の入学生は「コミュニケーション応用演習Ⅰ」	○	○	○	○	○	○	○
10	政策学研究発展演習Ⅲ	○	○	○	○	○	○	○
11	政策学研究発展演習Ⅳ	○	○	○	○	○	○	○
12	政策学研究発展演習Ⅴ	○	○	○	○	○	○	○

13	政策実践・探究演習ⅠA (国内) ※2014年度前後期受講生は「政策実践・探究演習ⅠA」	○	○	○	○	○	○	○
14	政策実践・探究演習ⅡA (国内)	—	○	○	○	○	○	○
15	政策実践・探究演習ⅠA (海外)	—	○ (追加)	○	○	○	○	○ (コロナで中止)
16	政策実践・探究演習ⅡA (海外)	—	— (追加)	○	○	○	○	○ (コロナで中止)
17	政策実践・探究演習ⅠB (国内)	—	× (追加)	×	×	×	×	×
18	政策実践・探究演習ⅡB (国内)	—	— (追加)	×	×	×	×	×
19	政策実践・探究演習ⅠB (海外) ※2014年度後期～2015年前期受講生は「政策実践・探究演習ⅠB」	○	○	×	×	×	×	○ (コロナで中止)
20	政策実践・探究演習ⅡB (海外)	—	×	×	×	×	×	—
21	Glocal Action Program	—	—	—	—	○ (追加)	○	○

注① 「政策実践・探究演習ⅠAⅡA (国内)」「政策実践・探究演習ⅠBⅡB (国内)」「政策実践・探究演習ⅠAⅡA (海外)」「政策実践・探究演習ⅠBⅡB (海外)」
Aは前・後期開講、Bは後・前期開講(4単位)または後期集中開講(2単位)の差で科目名が異なる。
(国内)については、プロジェクトはいくつかあるがAもBも同講義。
(海外)についてはAとBでフィールドが異なるため別講義。

注② 「政策実践・探究演習Ⅱ」は先修制を定めており、Ⅰの修得が履修の要件となる。

軽微な変更の申請状況

	申請日	申請の種別	概要
1	2015年8月3日	科目担当者の変更	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境経済学の科目担当者が、植田和弘から金紅実へ変更した。 ② 政策学研究発展演習Ⅲの科目担当者が、堀尾 正靱・金紅実から矢作弘・阿部大輔へ変更した。 ③ 政策学研究発展演習Ⅳの科目担当者が、堀尾 正靱・金紅実から矢作弘・阿部大輔へ変更した。 ④ 政策学研究発展演習Ⅴの科目担当者が、堀尾 正靱・金紅実から矢作弘・阿部大輔へ変更した。
2	2015年8月3日	科目名の変更	コミュニケーション応用演習Ⅰの科目名が、キャリア・コミュニケーション演習へ変更した。
3	2015年8月3日	科目名の変更	<ul style="list-style-type: none"> ① 政策実践・探究演習ⅠAが政策実践・探究演習ⅠA（国内）へ変更した。 ② 政策実践・探究演習ⅠBが政策実践・探究演習ⅠB（海外）へ変更した。 ③ 政策実践・探究演習ⅡAが政策実践・探究演習ⅡA（国内）へ変更した。 ④ 政策実践・探究演習ⅡBが政策実践・探究演習ⅡB（海外）へ変更した。
4	2015年8月3日	AL要素を含む科目の追加	<ul style="list-style-type: none"> ① 政策実践・探究演習ⅠB（国内）（担当：只友景士・清水万由子）の科目が追加された。 ② 政策実践・探究演習ⅡB（国内）（担当：只友景士・清水万由子）の科目が追加された。 ③ 政策実践・探究演習ⅠA（海外）（担当：金紅実、谷垣岳人）の科目が追加された。 ④ 政策実践・探究演習ⅡA（海外）（担当：金紅実、谷垣岳人）の科目が追加された。
5	2016年12月15日	科目名の変更（追加）	「温暖化防止政策」は、同一の講師・開講曜時・講義内容で「環境政策論Ⅱ」としても開講しており、学内の所属コースにより、成績証明書への科目名表記が異なる。
6	2018年5月21日	科目担当者の変更	環境政策総論の科目担当者が、清水万由子から大島堅一へ変更した。

7	2018年5月21日	科目担当者の変更	環境経済学の科目担当者が金紅実から大島堅一へ変更した。
8	2018年5月21日	科目担当者の変更	政策学研究発展演習Ⅲの科目担当者が、矢作弘・阿部大輔から大島堅一・土山希美枝へ変更した。
9	2018年5月21日	科目担当者の変更	政策学研究発展演習Ⅳの科目担当者が、矢作弘・阿部大輔から大島堅一・土山希美枝へ変更した。
10	2018年5月21日	科目担当者の変更	政策学研究発展演習Ⅴの科目担当者が、矢作弘・阿部大輔から大島堅一・土山希美枝へ変更した。
11	2018年11月22日	科目の追加	Glocal Action Program を追加した。
12	2020年7月30日	科目担当者の変更 (2019)	政策学研究発展演習Ⅲの科目担当者が土山希美枝・大島堅一から土山希美枝・石倉研へ変更した。
13	2020年7月30日	科目担当者の変更 (2020)	政策学研究発展演習Ⅲの科目担当者が土山希美枝・石倉研から地頭所里紗・石原凌河へ変更した。
14	2020年7月30日	科目担当者の変更 (2019)	政策学研究発展演習Ⅳの科目担当者が土山希美枝・大島堅一から土山希美枝・石倉研へ変更した。
15	2020年7月30日	科目担当者の変更 (2020)	政策学研究発展演習Ⅳの科目担当者が土山希美枝・石倉研から土山希美枝・地頭所里紗へ変更した。
16	2020年7月30日	科目担当者の変更 (2019)	政策学研究発展演習Ⅴの科目担当者が土山希美枝・大島堅一から土山希美枝・石倉研へ変更した。
17	2020年7月30日	科目担当者の変更 (2020)	政策学研究発展演習Ⅴの科目担当者が土山希美枝・石倉研から地頭所里紗・石原凌河へ変更した。
18	2020年7月30日	科目担当者の変更 (2019)	政策実践・探究演習ⅠA (海外) の科目担当者が金紅実・谷垣岳人から金紅実・安周永/石原凌河・村田和代に変更した。
19	2020年7月30日	科目担当者の変更 (2020)	政策実践・探究演習ⅠA (海外) の科目担当者が金紅実・安周永/石原凌河・村田和代から金紅実/中森孝文・大石尚子に変更した。
20	2020年7月30日	科目担当者の変更 (2019)	政策実践・探究演習ⅡA (海外) の科目担当者が金紅実・谷垣岳人から金紅実・安周永/石原凌河・村田和代に変更した。
21	2020年7月30日	科目担当者の変更 (2020)	政策実践・探究演習ⅡA (海外) の科目担当者が金紅実・安周永/石原凌河・村田和代から金紅実/中森孝文・大石尚子に変更した。

更新する教育プログラムの特徴

資格教育プログラムの概要

本プログラムは、環境問題を地球規模かつ地域規模の多面的な視角から学び、実際に展開されている多様な取組みを検討し、課題解決を地球規模、地域規模で実践的に構想する力の基礎、また課題をめぐる社会内のコミュニケーションのメカニズムの基礎を学ぶことを目標としている。また、講義や演習科目を通じて、グローバル/ローカルな人間活動と、気候変動や物質循環の変化等の地球的な環境問題および身近な自然環境・資源の劣化問題との相互関係を理解し、環境問題を生じる背景と諸要因を分析する力（知識）、分析に基づいて環境問題の解決に有効な政策手法を提示し、利害関係者の調整と協働関係を構築する力（技能）、環境問題を解決し、持続可能な社会を構築する取組みに必要な資源を調達しプロジェクトを企画する力（能力）を身につける。

特色ある取り組み（自由記述）

1) 学部科目の系統的配置

本プログラムの科目は、学部教育の専攻基本・専攻コース科目によって構成されており、当該科目は系統的に配置され、学部教育と連動していることが最大の特色である。

2) 多様な学修者によるアクティブラーニング科目

本プログラムのアクティブラーニングについては、学部の多様な学年及び大学院修士課程までの学生が学びあう設計になっている。この設計は、本学部設置以前から龍谷大学法学部における「地域政策発展演習」で実践されてきた流れを継承し、上級生・大学院生の経験や高度な専門性に下級生が刺激を受け、学修が支援され、また、下級生の存在や新鮮な発想が上級生や大学院生の一層の成長につながるといった相乗効果を意図している。

3) 多彩な地域連携科目

本プログラムのフィールドは多彩である。特に、PBL科目「政策実践・探究演習（国内）」では、京都府京丹後市、福知山市、亀岡市、滋賀県守山市、兵庫県洲本市をフィールドとするプロジェクトの中から選択することができる。プロジェクトの多くが環境保全をテーマとしており、地域の特性を活かした取組を学ぶことができる。

4) 環境政策の専門的学修プログラム

本プログラムは1回生から環境に関する科目の履修を開始し、上回生になるにつれアクティブラーニング要素も取り入れている。環境政策について基礎から多面的・専門的に学べるプログラムとなっている。

1 資格教育プログラムの目的・教育目標・学習アウトカム

1-1- I. 目的・教育目標

本プログラムは、政策学部環境創造コースの所属学生を中心に、幅広い学習者を対象としている。プログラムの目的は、環境問題について地球規模かつ地域規模の多面的な視角から学び、実際に展開されている多様なとりくみを検討し、課題解決を地球規模、地域規模で実践的に構想する力の基礎、また課題をめぐる社会内のコミュニケーションのメカニズムの基礎を学ぶことである。到達目標は、地域社会における様々な課題に対応するために必要な知識・技能・実践方法を主体的に選択し実行することができる能力を身に付けることである。

対象とする社会的課題は、地球温暖化や食料問題など人類共通の課題である。社会全般の持続可能な発展を実現するためには、その課題の持つ総合性をふまえ、幅広い視点に立った政策が必要である。そのためには、市民団体、企業、政府などと連携し課題解決する能力を身につけることも重要である。

こうした認識のもと、本プログラムは環境政策の構想と実現を担う主体に必要なとされる基礎的な知識、技能、能力を獲得することにより、自然と共生する持続可能な社会づくりに参画するための基礎的・総合的な力を獲得することを教育目標としている。(496字)

添付資料の該当箇所

添付資料 1-1 2020 年度政策学部履修要項 P55 (環境創造コース)

添付資料 2-1 2020 年度政策学部履修要項 P79-80 (環境政策基礎能力プログラム)

1-1- II. 資格教育プログラムの学習アウトカム

達成目標	[6-0-3] 地域社会における様々な課題に対応するために必要な知識・技能・実践方法を主体的に選択し実行することができる
知識	[6-1-1] グローバル化する世界と地域社会の関係を理解している、 [6-1-3] 対象となる課題群の相互関係を把握し分析することができる
技能	[6-2-1] 地域における複雑な課題群について、その解決に必要な要素の特定と解決のためのプログラムの提示及び適用ができる [6-2-3] 対象となる業務の進行に必要な利害関係者間の調整と協働関係の構築ができる
職務遂行能力	[6-3-1] 地域社会における特定の計画やプロジェクト策定を主導することができる [6-3-3] 課題の解決のために必要な社会的資源を調達することができる

1-1-III. 資格教育プログラムで育成する人材像

本プログラムの受講対象者は、政策学部2年次生以上もしくはそれと同等の能力があると政策学部が認める者としている。

育成していく人材像については、自然と共生する持続可能な社会の実現に向けて、地球的な視点と将来世代の視点をあわせもち、具体的な政策課題の発見と解決アプローチの実践を行う主体となる人材である。

本プログラムの履修により、グローバル化する世界と地域社会の関係に関する理解、対象となる課題軍の相互関係の把握と分析（知識）、地域における複雑な課題群について、その解決に必要な要素の特定と解決のためのプログラムの提示及び適用、対象となる業務の信仰に必要な利害関係者間の調整と協働関係の構築（技能）、地域社会における特定の計画やプロジェクト策定への主導、課題の解決のために必要な社会的資源の調達（職務遂行能力）を身につけることをアウトカムとして設定している。

本プログラムを終了した者が具体的に活躍する領域としては、環境政策に関わる公務員、企業における環境・CSR関係部署、環境NGO・NPOなどが想定される。(447字)

添付資料の該当箇所

1-1-Iと同様の添付資料となるため省略

1-1-IV. プログラムの広報

本プログラムは基本的に政策学部生を対象としていることから、入学時生に発行する政策学部履修要項において資格制度の説明、本プログラムの目的・教育目標、学習アウトカム、育成する人材像などについて掲載した。また、毎学期実施する履修説明会においても別途説明資料を用意し、2年生以上については資格取得意思のある学生に対し「意思確認書」を提出するよう説明を行った。併せて学内のポータルサイトのお知らせに掲載した。学部HPにおいても本資格制度について掲載し、広く周知するとともに地域公共政策士資格制度の普及やプログラム受講者数の増を目指した。

添付資料の該当箇所

添付資料3 2020年度政策学部履修要項P78（地域公共政策士）

添付資料2-1 2020年度政策学部履修要項P79-80（環境政策基礎能力プログラム）

添付資料4 履修説明会資料

添付資料5-1 意思確認書（環境政策基礎能力プログラム）

参考URL：<http://www.policy.ryukoku.ac.jp/about/regional.html>

2 資格教育プログラムの内容

2-1-I. 資格教育プログラムに設置する科目（※添付資料：シラバス等）

構成科目名		担当者名	ポイント	履修時間	開講時期	科目設定	教育要素設定	備考
1	環境政策総論	大島 堅一	2	22.5時間	4月～7月 2年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策研究の基礎知識	環境問題の世界規模の全体像や対応政策について、その基礎を学ぶ。
2	環境経済学	大島 堅一	2	22.5時間	9月～1月 2年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策研究の基礎知識	環境問題の世界規模の全体像や対応政策について、その基礎を学ぶ。
3	環境社会学	清水 万由子	2	22.5時間	4月～7月 3年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策的思考法	環境問題が社会にどのような影響をおよぼすかを広範に学ぶ。
4	持続可能性と共生を学ぶ ※「持続可能な発展概論」を削除し、本科目を追加する。	的場 信敬 岡本 健資	2	22.5時間	9月～1月 1年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策的思考法	環境問題が社会にどのような影響をおよぼすかを広範に学ぶ。
5	欧州の環境政策	豊田 陽介	2	22.5時間	4月～7月 2年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策得意分野づくり	エネルギー、温暖化問題に対する地域事例を通じて学ぶ。
6	環境エネルギー政策	豊田 陽介	2	22.5時間	4月～7月 3年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策得意分野づくり	エネルギー、温暖化問題に対する地域事例を通じて学ぶ。
7	保全生態学	谷 垣岳人	2	22.5時間	4月～7月 2年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策得意分野づくり	エネルギー、温暖化問題に対する地域事例を通じて学ぶ。
8	温暖化防止政策 (環境政策論Ⅱ)	北川 秀樹	2	22.5時間	9月～1月 3年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	政策得意分野づくり	エネルギー、温暖化問題に対する地域事例を通じて学ぶ。※学部共通コース「環境サイエンスコース」では2020年度は「環境政策論Ⅱ」で開講
9	キャリア・コミュニケーション演習※2014年度以前の入学生は「コミュニケーション応用演習Ⅰ」	村田 和代 ※但し2021年 のみ担当者交替 (担当者未定)	2	22.5時間	9月～1月 2年次～4年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※都市政策基礎能力プログラム、グローバル人材プログラム共通
10	政策学研究発展演習Ⅲ	地頭所 里紗 大島 堅一	2	45時間	9月～1月 3年次	必須・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※都市政策基礎能力プログラム共通

11	政策学研究発展演習Ⅳ	金 紅実 石原 凌河	2	45 時間	4月～7月 4年次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※都市政策基礎能力プログラム共通
12	政策学研究発展演習Ⅴ	地頭所 里紗 大島 堅一	2	45 時間	9月～1月 4年次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※都市政策基礎能力プログラム共通
13	政策実践・探究演習ⅠA (国内) ※2014年度前後 期受講生は「政策実践・探 究演習ⅠA」	只友 景士 大石 尚子	2	45 時間	4月～1月 2年次～4年	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※都市政策基礎能力プログラム共通
14	政策実践・探究演習ⅡA (国内)	只友 景士 大石 尚子	2	45 時間	4月～1月 3年次～4年次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※都市政策基礎能力プログラム共通
15	政策実践・探究演習ⅠA (海外)	金 紅実	2	45 時間	4月～1月(集 中) 2年次～4年次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※都市政策基礎能力プログラム、グローバル人材プログラム共通
16	政策実践・探究演習ⅡA (海外)	金 紅実	2	45 時間	4月～1月(集 中) 3年次～4年 次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※都市政策基礎能力プログラム、グローバル人材プログラム共通
17	政策実践・探究演習ⅠB (海外) ※2014年度後 期・2015年度前期受講生 は「政策実践・探究演習Ⅰ B」	服部 圭郎	2	22.5 時間	9月～3月(集 中) 2年次～4年 次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※都市政策基礎能力プログラム、グローバル人材プログラム共通
18	政策実践・探究演習ⅡB (海外)	服部 圭郎	2	22.5 時間	9月～3月(集 中) 3年次～4年 次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※都市政策基礎能力プログラム、グローバル人材プログラム共通
19	Glocal Action Program	深尾 昌峰 三木 俊和	2		4月～3月 1年次～3年次	必須・ <input type="checkbox"/> 選択・共通科目	社会人基礎力	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを学ぶ。 ※都市政策基礎能力プログラム、グローバル人材プログラム共通

2-1-II. 資格教育プログラムの体系図

【環境政策基礎能力プログラム・科目体系図】		1回生		2回生		3回生		4回生	
ねらい	修了要件 (計6科目 12ポイント 以上)	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
		第2 セメスター	第3 セメスター	第4 セメスター	第5 セメスター	第6 セメスター	第7 セメスター	第8 セメスター	
◎	環境問題の世界規模の全体像について、その基礎を学ぶ	1科目 2ポイント 以上	環境政策総論	環境経済学					
□	環境問題が社会にどのような意味を持つかを広範に学ぶ	1科目 2ポイント 以上	持続可能性と共生を学ぶ		環境社会学				
△	エネルギー、温暖化問題に対する地域事例を通じて学ぶ	1科目 2ポイント 以上	欧州の環境政策	保全生態学	環境エネルギー政策	温暖化防止政策			
※	得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを主体的に学び、企画・実践力を養う	1科目 2ポイント 以上	政策実践探究演習ⅠA(国内・海外)	政策実践探究演習ⅠB(海外)	キャリア・コミュニケーション演習	政策実践探究演習ⅡA(国内・海外)	政策実践探究演習ⅡB(海外)		
			Glocal Action Program						
						政策学研究発展演習Ⅲ			
							政策学研究発展演習Ⅳ		
								政策学研究発展演習Ⅴ	

【図の説明】

本プログラムの目的・教育目的に対応するため、以下のような体系性をもって構成している。

- ・環境問題の世界規模での全体像についてその基礎を学ぶ「持続可能性と共生を学ぶ」「環境政策総論」「環境経済学」においては、概要および全体像を学ぶ科目であることから、1回生後期および2回生前期から履修可能な科目として、早期の履修を誘導している。
- ・概論の修得をふまえて、環境問題が社会にどのような意味を持つかを広範に学ぶ「環境社会学」は3回生前期においている。
- ・エネルギー、温暖化問題に対する地域事例を通じて学ぶ科目については、「保全生態学」「欧州の環境政策」を2回生前期、より専門性の高い「環境エネルギー政策」は3回生前期、「温暖化防止政策」は3回生後期に配置している。
- ・得た知識から分析、議論を重ね、思考していくことを主体的に学び、企画・実践力を養う演習科目としては、「政策実践・探究演習ⅡAB(国内・海外)」を2回生から4回生まで、「キャリア・コミュニケーション演習」を2回生後期、「政策学研究発展演習Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」を3回生後期から半期ごとに4回生後期まで開設している。

なお、キャリア・コミュニケーション演習、政策学研究発展演習、政策実践・探究演習ⅠⅡ(国内・海外)は、大学院の科目としても開講しており、学部生と院生が同じ演習で学びあう科目として機能している。

このように、資格教育プログラムとして展開される科目は、学部における系統的履修、体系的履修にも対応しており、学習者は一部の科目を除き学部の2回生から4回生にかけてこれらの科目を履修する。その内容は学部の専攻科目の水準を保っており、学部学生は2年間ないし3年間をかけてプログラムを修得することとなる。

修得ポイント数は各講義科目が2ポイントであり、学部における修得単位2単位に相当する。ただし、演習科目については学部では4単位であるが、本プログラムでは2ポイントとしており、十分な修得期間および内容を担保することとしている。

2-2- I. 学習アウトアムの達成に向けた教育内容の説明

知識

〔6-1-1〕 グローバル化する世界と地域社会の関係を理解している。	
環境政策総論	環境問題は、地域的なものから地球規模のものまでの広がりを見せている。これに対処し、問題解決を図るのが環境政策であり、人間にとって最も重要な政策の一つである。環境問題の広がりに応じて展開されてきた環境政策の歴史、環境政策の基本原則、理論、環境政策手法について、いくつかの具体的環境問題を参照しつつ理解を深める。（毎回小テストで確認）
	① 環境問題の歴史、環境政策の発展について理解できましたか。 ② 環境政策の基本的考え方、諸手段について理解できましたか。
環境経済学	環境問題は、人類の経済活動によって生じる問題である。それゆえ、経済を環境的に持続的なものに転換することができれば環境問題を解決できる。その基礎となるのが環境経済学である。本科目では原発事故などの具体的事例から、解決方法について考える。（毎回小テストで確認）
	① 環境問題の原因を理解できましたか。 ② 環境経済学に関する基礎的知識は得られましたか。 ③ 環境問題に経済学の観点からアプローチできるようになりましたか。
持続可能性と共生を学ぶ	1992年の地球サミットにおいて「持続可能な発展」が世界共通の目標として設定され、近年では国際社会共通のゴールとなるSDGs（持続可能な開発目標）の取組が社会全体で進んでいる。この「持続可能な発展」の理論と実践について、仏教の視点も踏まえながら、国内外の文献及び先進事例の検討から、受講生自身の生活との関わりについて考える。
	① 「持続可能な発展」概念の主要素と実際社会における意義及び実践について理解できましたか。 ② 「持続可能な発展」を常に自分の実生活に適用させて考えることができますか。
欧州の環境政策	気候変動（地球温暖化）・エネルギー政策を中心に、欧州のEUレベル、国レベル、自治体レベルの環境政策の概要、手法、推進体制などについて学ぶ。また、環境政策の基礎にある市民、NGO等の取組、影響・関与についても学んでいく。さらに、日本の精度・政策と比較することにより、欧州の環境政策の特徴・位置づけについて理解する。
	欧州の環境政策について、EU、国、地域それぞれの ① 特徴 ②位置づけ ③役割 を理解できましたか。
環境エネルギー政策	地球温暖化問題、エネルギー問題、環境破壊などを背景に、これまで化石燃料をベースにしたエネルギー供給体系から、再生可能エネルギーを中心に据えた新たなエネルギー政策へと世界の主流は大きく変わりつつある。ドイツ、アメリカの新しい環境エネルギー政策、再生エネルギーへの投資と化石

	<p>燃料からの投資撤退について、その背景・手法・効果などについて学ぶ。さらに、日本国内における環境エネルギー政策の変遷・現状・課題との比較分析を行う。</p>
	<p>① ドイツ、アメリカの新しい環境エネルギー政策、再生エネルギーへの投資と化石燃料からの投資撤退について理解できましたか。</p> <p>② 各国との比較から日本の環境エネルギー政策の特徴・現状・課題について理解できましたか。</p>

<p>〔6-1-3〕 対象となる課題群の相互関係を把握し分析することができる。</p>	
環境社会学	<p>人間にとっての環境問題の本質を理解するには、人間がこれまでに自然とどのように関わって来たのか、人間は自然をどのように理解して関係構築を試みてきたのかを、一人ひとりの個人の内的経験に即して知ることが重要である。そこで、「聞き書き」（ライフストーリー/ライフヒストリー）という手法により、受講生みずから作品を制作することを通じて、技術を磨き、両者の関係の歴史的な変化の理解をふまえて受講生自身の生き方を再考するきっかけとなるようにする。</p> <p>① 優れた「聞き書き」作品の読解により、人間の経験世界を通して自然と人間の関係をとらえる方法を理解できましたか。</p> <p>② 自分の身近な人に対する「聞き書き」を作品化することで、語り手の言葉に即して自らの解釈に基づいて物語を再構築し、文章によって表現することができるようになりましたか。</p>
保全生態学	<p>世界人口の増加と経済活動は地球上の生物多様性に大きな影響を与えている。地球上の生物たちの絶滅は今後も続くのだろうか。人と野生動物との共存の道はないのだろうか。この問題に取り組むのが保全生態学である。本科目では、生物多様性の現状、生物多様性の保全における国際機関・国・地方自治体・企業・市民それぞれの役割と取組を紹介し、人と自然との持続可能な共存関係について考える。</p> <p>① 生物多様性が減少している現状と原因を理解できましたか。</p> <p>② 生物多様性を守る仕組みが理解できましたか。</p>
温暖化防止政策	<p>本科目では、まず地球温暖化のメカニズムと影響、温暖化防止のための国際交渉の現状を知り、日本政府の計画、戦略について学ぶ。また、温暖化適応策に触れた後、日本の温室効果ガス排出状況と政府・自治体の地球温暖化対策や企業・地域・家庭等の取組について、省エネルギー、再生可能エネルギー、革新的技術開発、森林吸収源等を取り上げ、その背景・内容・課題を考える。</p> <p>① 各種の地球温暖化対策とその効果を理解し、説明することができますか。</p> <p>② 温暖化防止政策は資源節約、循環型社会形成につながることを理解できましたか。</p>

技能

〔6-2-1 地域における複雑な課題群について、その解決に必要な手法の特定と解決のためのプログラムの提示及び適用ができる〕	
キャリア・コミュニケーション演習	<p>本科目は学部生と大学院生の合同科目で、アクティブラーニング、ワークショップ形式で進める。参加・協働型社会に求められる実践的なコミュニケーション能力の習得をめざす。年次を超えた受講生の学び合いにより、上級生は指導的立場を経験し、下級生は研究方法・研究姿勢を身に付けることができる。</p> <p>① アクティブラーニングを通して、参加・協働型社会に求められる実践的なコミュニケーション能力は向上しましたか。</p> <p>② 実践的なコミュニケーション能力を地域での実践力につなげることができますか。</p>
政策学研究発展演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	<p>本演習は、2回生から大学院生まで多様な受講生のもとさまざまな政策課題から自分のテーマを見つけ、調査・考察し一つの論文を書き上げることが本演習の流れです。論知的思考を表現する文章力を身につけ、実践や知識を得るだけでなく、「伝える」力を育てることができます。</p> <p>① 自分のテーマ・課題を設定し、文献、論文、資料を集めて読み解き、データをふまえて分析し、必要に応じて取材や情報公開請求を行いましたか。</p> <p>② 成果発表の資料作成、議論を通じて矢面的な視野と根拠に基づいた思考ができるようになりましたか。</p> <p>③ 多様な政策課題への理解をもった政策研究を行い、論文にまとめることができましたか。</p>

〔6-2-3〕 対象となる業務の進行に必要な利害関係者間の調整と協働関係の構築ができる	
Glocal Action Program	<p>地域課題を自ら抽出し・設定し、地域の現状把握を行った上で課題解決に向けた仮説の提示、アウトカム実現に向けたアクションプランの策定に必要な力を身につける。地域の多様なステークホルダーとのコミュニケーションや調整を学生が主体的に行う。</p> <p>① 地域課題についての理解が深まりましたか。</p> <p>② 課題解決に向けたアクションプランを策定できましたか。</p> <p>③ 地域の多様なステークホルダーと協働関係を構築できましたか。</p>

職務遂行能力

〔6-3-1〕 地域社会における特定の計画やプロジェクト策定を主導することができる。	
政策実践・探究演習（国内） IA	<p>本演習は、地域における調査研究及び政策実践を行い、人類的及び地域課題を発見し、その課題を他者と協働して解決することのできる協働社会づくりに不可欠な人材育成を行う。本科目の特徴は、①全体講義と複数の地域での個別プロジェクト活動の組み合わせとなっていること ②学部2回生から大</p>

	<p>学院生までの受講生がそれぞれの段階に応じて異なる到達目標と役割をもって共に学び合うこと ③実際の地域課題に対して、受講生が自ら課題を分析し、連携先との協働により解決策を企画・実施すること である。こうした学びから論理的思考力、表現力、マネジメント能力などを身につけることができる。</p> <p>① 文献資料、データベース、ヒアリングデータ等を活用して、地域における課題を調べることができますか。</p> <p>② 現地でのプロジェクト活動を企画・立案し、実施し、プロジェクトマネジメント能力が身につきましたか。</p> <p>③ 調査研究及びプロジェクト活動の成果をまとめて論理的なプレゼンテーションを行うことができますか。</p> <p>④ 他者との関わりの中で、自らの学びを振り返ることができますか。</p>
<p>政策実践・探究演習（海外） I A</p>	<p>本演習は、地域の自然資源の価値を再評価し利活用することを通じて、人と自然の持続可能な共存関係を構築するのに必要な条件を海外の大学生との相互訪問型の研修プログラムを軸に、国際的な視野に立ち内発的発展のための政策提言をおこなう。2 回生から大学院生までの多様な学生が学び合い、語学研修とは異なるアプローチでの海外フィールドワークを行う。</p> <p>① グローバル化時代の地域社会の課題を発見し、課題解決に必要な専門知識を習得しましたか。</p> <p>② 国際的な視点をもって、地域社会の問題解決に取り組む能力を身につけましたか。</p> <p>③ 異文化理解や国際的なコミュニケーション能力を養うことができましたか。</p>
<p>政策実践・探究演習（海外） I B</p>	<p>本演習は、「サステイナブル・デザイン」のコンセプト、そのコンセプトを支える背景となる考え方の一連の講義、さらに、その先進的実践事例を学ぶ海外フィールドワークから構成される。サステイナブル・デザインの要素として、「持続的住まい」「持続的交通（脱自動車）」「持続的農業」「持続力を増す多様な社会」「持続的な土地利用」などについて学ぶ。事前学習・海外フィールドワークにより英語力を養うとともに、帰国後には現地での学びを整理し発表するプロセスを通じて、学びの言語化、共有化を図る。</p> <p>① サステイナブル・デザインのコンセプトを理解していますか。</p> <p>② ①のコンセプトを支える背景となる考えを理解していますか。</p> <p>③ グローバルな観点から持続型社会を構築するための方法論の基礎を理解していますか。</p>
<p>〔6-3-3〕 課題の解決のために必要な社会的資源を調達することができる。</p>	
<p>政策実践・探究演習（国内） II A</p>	<p>本科目は、地域における調査研究及び政策実践を行い、人類的及び地域課題を発見し、その課題を他者と協働して解決することのできる協働社会づくりに不可欠な人材育成を行う。本科目の特徴は、①全体講義と複数の地域での</p>

	<p>個別プロジェクト活動の組み合わせとなっていること ②学部2回生から大学院生までの受講生がそれぞれの段階に応じて異なる到達目標と役割をもって共に学び合うこと ③実際の地域課題に対して、受講生が自ら課題を分析し、連携先との協働により解決策を企画・実施すること である。こうした学びから論理的思考力、表現力、マネジメント能力などを身につけることができる。</p> <p>履修2年目のIIA受講生は個別プロジェクトマネジメントに主導的にかかわるとともに、全体講義において大学院生とともに他のプロジェクトの成果評価を行う。</p> <p>① 文献資料、データベース、ヒアリングデータ等を適切に活用することができますか。</p> <p>② 現地でのプロジェクト活動を主導的に企画・立案することができ、チームビルディングなど、プロジェクトマネジメント能力が身につきましたか。</p> <p>③ 調査研究及びプロジェクト活動の成果をまとめて論理的なプレゼンテーションの構成を考えることができますか。</p> <p>④ 他者との関わりの中で得た学びを言語化することができますか。</p>
<p>政策実践・探究演習（海外） IIA</p>	<p>本科目は、地域の自然資源の価値を再評価し活用することを通じて、人と自然の持続可能な共存関係を構築するのに必要な条件を海外の大学生との相互訪問型の研修プログラムを軸に、国際的な視野に立ち内発的発展のための政策提言をおこなう。2回生から大学院生までの多様な学生が学び合い、語学研修とは異なるアプローチでの海外フィールドワークを行う。</p> <p>① グローバル化時代の地域社会の課題発見・分析能力をさらに向上させ、必要な専門知識を体系的に習得しましたか。</p> <p>② 国際的な視点をもって、地域社会の問題解決に取り組む能力と異文化理解や国際的なコミュニケーション能力を習得しましたか。</p> <p>③ 自らの言語による自己成長プロセスを客観的に評価できますか。</p>
<p>政策実践・探究演習（海外） IIB</p>	<p>本演習は、「サステイナブル・デザイン」のコンセプト、そのコンセプトを支える背景となる考え方の一連の講義、さらに、その先進的实践事例を学ぶ海外フィールドワークから構成される。サステイナブル・デザインの要素として、「持続的住まい」「持続的交通（脱自動車）」「持続的農業」「持続力を増す多様な社会」「持続的な土地利用」などについて学ぶ。事前学習・海外フィールドワークにより英語力を養うとともに、帰国後には現地での学びを整理し発表するプロセスを通じて、学びの言語化、共有化を図る。</p> <p>IIB受講生はリーダー的役割を担う。</p> <p>① サステイナブル・デザインのコンセプトを理解し他者に説明できますか。</p> <p>② ①のコンセプトを支える背景となる考えを理解し他者に説明できますか。</p> <p>③ グローバルな観点から持続型社会を構築するための方法を提言するこ</p>

	とができますか。
--	----------

2-2-Ⅱ. 教育・指導方法におけるプログラム全体の特徴

本プログラムは学部専門科目の系統的配置のもとに、学部教育と連動している。科目の内容と教育の方法は評価基準とともにシラバスにおいて明示され、適切な実施を担保している。シラバスは Web でも閲覧可能であり、毎年度ごとに学部における自己点検・評価によって科目の内容、教育の方法が適切であるか確認される仕組みが整っている。

学年を超えた学習者の学びのコミュニティを形成し、上級生と下級生が地域での活動を通して学び合うようなアクティブラーニング、地域連携型 PBL を特色としている。

環境政策について系統的に基礎から多面的・専門的に学べるプログラム設計となっており、学習者は、グローバル化する世界と地域を理解し、環境問題について解決に必要な手段・方法の提示、課題解決に向けた環境政策についての提言ができる能力を身に付けることができる。

2-3. 対象とする学習者と開講形態

本プログラムは政策学部生を対象としている。本学部では 2 回生後期からコース制をひき、その中にある環境創造コースと本プログラムは親和性が高い。さらに、本学部が環境問題と持続可能性の視角を政策学の前提としておいていることから、環境創造コースに限らず環境問題に関心のある学生を広く本プログラムの学習者として想定している。履修が無理なく着実なものとなるよう、曜講時やセメスター配置について体系的な履修が可能となるよう配慮している。

資格教育プログラムとして展開される科目は、学部における系統的・体系的履修にも対応しており、学習者は一部の科目を除き学部の 2 回生から 4 回生にかけ履修する。科目群は専攻科目の水準を保っており、学部学生は 2～3 年間をかけてプログラムを修得することとなる。プログラムの修了に必要なポイント数は 12 ポイントであり、本プログラムの教育目標に照らして十分な質量と考える。修得ポイント数は各講義科目が 2 ポイントであり、学部における修得単位 2 単位に相当する。一部の演習科目については学部では 4 単位であるが、本プログラムでは 2 ポイントとしており、十分な修得期間および内容を担保することとしている。

2-4. 学習者への周知

本プログラムは基本的に政策学部生を対象としていることから、入学時生に発行する政策学部履修要項において資格制度の説明、本プログラムの目的・教育目標、学習アウトカム、科目一覧、対象者、育成する人材像などについて掲載する。また、毎学期実施する履修説明会においても別途説明資料を用意し、2 年生以上については各学期開始前に資格取得意思のある学生に対し「意思確認書」を提出するよう説明を行う。併せて学内のポータルサイトのお知らせに掲載する。学部 HP においても本資格制度について掲載し、広く周知するとともに地域公共政策士資格制度の普及やプログラム受講者数の増を目指す。(現時点 2021 年度政策学部履修要項作成中のため、2020 年度政策学部履修要項を添付資料とする。)

添付資料の該当箇所

1-1-Ⅳと同様の添付資料となるため省略

3. 学習効果の測定

3-1-I. 成績評価方法と学習者への明示

成績評価は、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちひとつまたは複数を組み合わせて評価される。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められている。その内容はシラバスに明示することとしている。

- ①筆頭試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験による評価
- ④授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価（学習ポートフォリオを活用した評価を含む）

また、基準については100点を満点とし60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とすることを基本的な基準としている。なお、成績評価について疑義がある場合、学生が所定の「成績疑義申出用紙」によって申し出られる制度も用意している。これら成績評価については、履修要項に明示されている。

添付資料の該当箇所

添付資料7 2020年度政策学部履修要項P22（成績評価）

添付資料8 2020年度政策学部履修要項P23（成績疑義）

添付資料9 成績疑義の受付について

添付資料10 成績疑義申請方法

3-1-II. ポイント認定の基準

本プログラムの目的・教育目標に対応して構成される各科目は、それぞれ達成目標をもち、評価基準をそれぞれの担当者が策定する。その評価基準はシラバスによって学習者に明示され、学期末に所定の方法で評価し、本プログラムのポイント認定評価となる。

資格教育プログラムの教育目的、ポイント認定の基準および方法については、学習者に説明資料等であらかじめ明示する。演習科目（「政策学実践・探究演習ⅠⅡA B（国内・海外）」、「政策学研究発展演習Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」）は学部の履修単位4単位に対し、プログラムで修得するポイントは2ポイントであるが、このことも明示する。

評価およびポイント認定は担当者により学習者に対し行われるが、3-1-Iに明示した通り、本学部には成績疑義評価制度があり評価の適切性を担保している。

添付資料の該当箇所

3-1-Iと同様の添付資料となるため省略

3-2. 外部機関との連携と評価

本プログラムにおいては、外部機関と連携した科目等は設置していない。

添付資料の該当箇所 なし

3-3- I.学習アウトカムを評価する基準と方法

2011年に発足した本学部では、本プログラム科目だけに限定されるものではないが、学部において学習者が学習成果を測るアンケートを毎年度実施している。各科目についても学生アンケートによる授業評価があり、成績疑義制度についても整備されている。

一部の科目においては、学習ポートフォリオによる学習記録を行う。学習者は、講義期間中に振り返りシートの記入を複数回行う。振り返りシートにおいては、「知識」、「技能」、「職務遂行能力」の3項目に「態度」を加えた4項目において、学習者は自己評価を行う。その自己評価の記述内容の統計的な分析を行うことで学生の学習アウトカムの評価を行う。

添付資料の該当箇所

添付資料 11 2020年度第2学期「学生による学期末の授業アンケート」の実施について

添付資料 12 学習ポートフォリオ（前期）

添付資料 13 学習ポートフォリオ（後期）

成績疑義については3-1-Iと同様の添付資料となるため省略

4. 資格教育プログラムの管理・運営体制

4-1. 管理・運営体制

資格教育プログラムの運営については、教務委員会、教授会の審議・承認を経て行う仕組みとなっており、プログラムを継続的かつ円滑に実施していくための体制を整えている。

本プログラムは、基本的に正課科目を利用したプログラムのため、教務委員会を中心に管理を行い、事務局については政策学部教務課及び地域協働総合センター（CeLC）が担い、教員と職員が連携しながら運営している。

添付資料の該当箇所 なし

4-2. 科目内容の点検・改善

プログラムの科目内容の点検・改善について、上記 4-1 の体制における運営の中で行われ、内容を充実させる仕組みになっている。また、教員活動の自己点検・評価制度も整備されており、毎年実施しており、それぞれの科目についても点検がなされている。

添付資料の該当箇所 なし

4-3. 学習者からの異議申立

3-1-I に明示した通り、各学期末の評価に対し大学として学習者の成績評価についての疑義申し立て制度が整っている。本プログラムを構成する各科目についても、成績疑義申し立て制度の対象となっており、その手順や期間は、履修要項やポータルサイトなどで明示されている。

添付資料の該当箇所

3-1-I と同様の添付資料となるため省略

5 教員及び講師

5-1 教員及び講師の構成

本プログラムの特徴は、学部学生に対し、環境問題とその問題性の基礎を、理論、経緯、事例の概要を学び、持続可能性という視角を養い、具体的な課題に対する政策を事例とともに学び、演習の議論によって政策の構想、実践を検討するところにある。

専門性のまだ低い学習者が、その履修を通じて能力を獲得していけるように、学部の専任教員を主として科目を編成している。「多様な環境政策の理論と実際」を学ぶ科目の一部（「欧州の環境政策」「環境エネルギー政策」）については、その科目を担うに相応しい、当該科目を専門領域とする非常勤教員を任用している。

「議論や構想を通じて自らのものとする」演習科目では、学部生から院生までが演習で学びあう環境を担うに相応しい、教授（「キャリア・コミュニケーション演習」）あるいは教授・准教授の複数体制（「政策学研究発展演習Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」「政策実践・探究演習ⅠⅡA B（国内・海外）」）をとっており、教育プログラムの目的を達成するに相応しい教員集団によりプログラムを提供している。

5-2 教員・講師の指導能力

教員名	種別	担当科目	評価時使用欄
大島 堅一	第1号	環境政策総論 環境経済学 政策学研究発展演習Ⅲ・Ⅴ	
清水 万由子	第1号	環境社会学	
的場 信敬	第1号	持続可能性と共生を学ぶ ※「持続可能な発展概論」を削除し、本科 目を追加する。	
岡本 健資	第1号	持続可能性と共生を学ぶ	
豊田 陽介	第2号	欧州の環境政策 環境エネルギー政策	
谷垣 岳人	第1号	保全生態学	
北川 秀樹	第1号	温暖化防止政策（環境政策論Ⅱ）	
村田 和代	第1号	キャリア・コミュニケーション演習	
只友 景士	第1号	政策実践・探究演習ⅠA（国内） 政策実践・探究演習ⅡA（国内）	
大石 尚子	第1号	政策実践・探究演習ⅠA（国内） 政策実践・探究演習ⅡA（国内）	
金 紅実	第1号	政策実践・探究演習ⅠA（海外） 政策実践・探究演習ⅡA（海外） 政策学研究発展演習Ⅳ	
服部 圭郎	第1号	政策実践・探究演習ⅠB（海外） 政策実践・探究演習ⅡB（海外）	
石原 凌河	第1号	政策学研究発展演習Ⅳ	
地頭所 里紗	第1号	政策学研究発展演習Ⅲ・Ⅴ	
深尾 昌峰	第1号	Glocal Action Program	
三木 俊和	第4号	Glocal Action Program	

その他：学習者の受入れ状況と認証期間における開講予定表

1 申請時の資格教育プログラムの登録者数

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
登録者数	24名	2名	一名	一名	一名	一名	一名

2 申請時の科目ごとの開講予定表

科目名		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
1	環境政策総論	○	○	○	○	○	○	○
2	環境経済学	○	○	○	○	○	○	○
3	環境社会学	×	○	○	○	○	○	○
4	持続可能性と共生を学ぶ ※「持続可能な発展概論」を削除し、本科目を追加する。(講義内容が似通っているため統合する)	○	○	○	○	○	○	○
5	欧州の環境政策	○	○	○	○	○	○	○
6	環境エネルギー政策	○	○	○	○	○	○	○
7	保全生態学	○	○	○	○	○	○	○
8	温暖化防止政策	○	○	○	○	○	○	○
9	キャリア・コミュニケーション演習 ※2014年度以前の入学生は「コミュニケーション応用演習Ⅰ」	○	○	○	○	○	○	○
10	政策学研究発展演習Ⅲ	○	○	○	○	○	○	○
11	政策学研究発展演習Ⅳ	○	○	○	○	○	○	○
12	政策学研究発展演習Ⅴ	○	○	○	○	○	○	○
13	政策実践・探究演習ⅠA(国内) ※2014年度前後	○	○	○	○	○	○	○

	期受講生は「政策実践・探究演習ⅠA」							
14	政策実践・探究演習ⅡA（国内）	○	○	○	○	○	○	○
15	政策実践・探究演習ⅠA（海外）	○	○	○	○	○	○	○
16	政策実践・探究演習ⅡA（海外）	○	○	○	○	○	○	○
17	政策実践・探究演習ⅠB（海外） ※2014年度後期・2015年度前期受講生は「政策実践・探究演習ⅠB」	○	○	○	○	○	○	○
18	政策実践・探究演習ⅡB（海外）	—	○	○	○	○	○	○
19	Glocal Action Program	○	○	○	○	○	○	○